

施設ケアにおける ポジショニング実践

特別養護老人ホーム 小鹿苑
太田 貴大
中島 綾香

ポジショニングとは

- クッションを使用し、対象者の身体の支えを設けること

ポジショニング
の基本

体位保持
筋緊張緩和
体圧分散
動き出しの起点

きっかけ

- 拘縮が酷くなっている利用者がある
- クッション類をどう当てていいのかわからない

目的

- 褥瘡・拘縮・歪みの予防・改善
- 安楽な姿勢

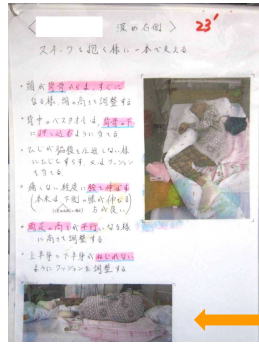
調査対象者

- 74才 要介護5
- 円背、手足の拘縮、リウマチ、臀部に褥瘡
- 全身の痛み強い
- あまり発語聞かれない
- 平成23年2月14日入所

実践方法

- ①外部の理学療法士による講義、姿勢保持困難者への定期的なポジショニング実践
↓
- ②対象利用者を決め、ポジショニングによる変化を記録
↓
- ③指導を受けた職員が、排泄介助・体位交換時に職員一人ひとりにクッションの当て方を指導

実践方法の例



- 深めの右側臥位
- 丸太のクッションを抱く
- 背骨を丸めたタオルでサポート

変化の調査方法

- 拘縮・身体の痛み・表情・発語の変化
→ 毎日専用ノートに記録
- ベッド臥床時の全身状態の変化
→ 毎月写真に収める(真上・真横)

経過①

- 円背・拘縮の変化
- 導入前



- 導入6ヶ月後



経過②

- 歪みの変化

導入6ヶ月後

- 導入前



経過③

- 褥瘡 — やや改善傾向も完治せず
- 痛み — 減少
- 発語 — 増加、さらに明瞭になり聞き取り易くなる
- 表情 — 笑顔が増加

結果

- 発語が増え 明瞭になったことにより、喉が乾いた・横になりたい・起きたい等訴えることができ、より充実した生活が送れるようになった
- 施設として一丸となって取り組むことにより職員の意識が変わり、理解を深めることができた

考察

- 本人にとっての**安楽な姿勢**が提供できたため、円背・歪み・痛みの大幅な改善が見られた
- ポジショニングを行なった事だけでなく、毎日細かく関わる事で、発語や笑顔の増加に繋がったのではないかと
- 変化が見えることで、より職員の意欲を上げることができた

課題

- 当施設で適切なポジショニングが必要と思われる利用者(現在導入者含む)
10名
- 現在取り組んでいる利用者 4名
- 職員の知識・技術の向上

- 最後に利用者様のとても良い笑顔をご紹介します

